

市内でインフルエンザが大流行中

◆アピールポイント

市内のインフルエンザ患者数が急激に増加し、昨年よりも大流行しています。これまで以上に感染対策を心掛け、換気、手洗い、手指消毒、咳エチケットなどの対策を十分にしてください。

市内のインフルエンザ患者が多いため、医療機関の受診が難しい状況も見られます。特に夜間は受診できる医療機関が限られていますので、受診する必要がある場合は、できるだけ日中に受診してください。

◆内容など

＜静岡市内のインフルエンザ感染状況＞

●インフルエンザ警報レベル

静岡市内は、2024年第52週から警報レベルとなっています。

※警報レベルとは、インフルエンザにおける1週間の新規患者数が、市内の1定点医療機関あたり30人以上となった場合で、警報は1定点医療機関あたり10人未満となった場合に解除されます。

●市内のインフルエンザの定点医療機関あたりの状況 (令和7年1月9日時点)

	50週 (12/9 ～12/15)	51週 (12/16 ～12/22)	52週 (12/23 ～12/29)	2025年1週 (12/30 ～1/5)
1定点あたりの患者報告数 (市内25の定点医療機関による調査)	10.84人 (注意報レベル)	23.76人 (注意報レベル)	44.08人 (警報レベル)	26.00人 (警報レベル)

●定点医療機関からの患者報告数の推移



別紙資料 ☒ 有 ・ 無

【問合せ】保健所感染症対策課

(葵区城東町 城東保健福祉エリア保健所棟2階)

担当 神邊、菅原

電話 054-249-3172

(別紙)

●インフルエンザの特徴

インフルエンザは、突然の高熱、頭痛、関節痛などの症状が現れます。普通の風邪と比べ全身症状が強く、気管支炎や肺炎、脳症などの合併症を引き起こし、重症化することがありますので、高齢者や乳幼児などは、特に注意が必要です。

＜感染予防・対策＞

- ・感染症予防は、日頃から個人での感染対策が重要です。
- ・人が多く集まる場所に行く際は、感染に注意しましょう。
- ・体調不良(発熱・咳・のどの痛み等)時に外出すると、更に症状が悪化するとともに、他人に感染させてしまう可能性がありますので注意しましょう。
- ・発熱等の症状がある場合は無理をせず休養するとともに、早めの医療機関の受診をお願いします。
- ・特に、夜間は受診できる医療機関が限られていますので、受診する必要がある場合は、できるだけ日中に受診してください。

●感染対策のポイント

- 1) こまめな手洗い・手指消毒をしましょう。
- 2) 換気を心掛けましょう。
- 3) 適度な湿度を保持しましょう。
- 4) 人混みでは、咳エチケットを励行しましょう。
- 5) 感染予防を心がけ栄養や休養をしっかりと、体調を整えるようにしましょう。
- 6) 健康に配慮が必要な方やその身近にいる方は特に感染対策を心掛けてください。

＜市内の感染症発生状況＞

市ではインフルエンザや新型コロナウイルス感染症などの発生状況が分かるよう、定期的に動画によりホームページで発信しています。ぜひご覧ください。

●感染症発生動向調査

<https://www.city.shizuoka.lg.jp/s2371/s003411.html>

●今週の感染症予報（動画）

https://www.tabeshizu.net/infection_countermeasures_division/

<（参考）静岡市内の新型コロナウイルス感染状況>

●市内の新型コロナウイルス感染症の定点医療機関あたりの状況

(令和7年1月9日時点)

	50 週 (12/9 ～12/15)	51 週 (12/16 ～12/22)	52 週 (12/23 ～12/29)	2025 年1 週 (12/30 ～1/5)
1 定点あたりの 患者報告数 (市内 25 の定点医療機 関による調査)	3. 60人	5. 20人	8. 80人 (注意報レベル)	3. 36人
1 週間あたりの 市内の推計患者 数(※)	752 人	1,144 人	2,026 人	693 人
1 日あたりの市 内の推計患者数 (※)	107 人	163 人	289 人	99 人

(※)市内の定点医機関における患者報告数から、過去のデータ（第7波～第8波）を基
に算出した市内の推計患者数

- ・2024 年 52 週に注意報レベルに達しましたが、現在は解除されています。引き続き注意が必要です。